

原野は急に姿を変えたー。どうなる釧路湿原周辺メガソーラー建設 国会議員や官庁巻き込む騒動に 自然との共存課題

佐竹直子
有料記事

古市優伍

菊池圭祐

長谷川裕紀

2025年9月17日 16:30(9月17日 23:20更新)

あとで読む



エネルギー・GX

フォロー中

#エネルギー・GX

#経済

#釧路市

#釧路根室

#鶴居村

#ニセコ町

#小樽後志



大坂市の事業者が釧路湿原周辺で建設を進める大規模太陽光発電所の工事現場=8月26日（小松巧撮影）

【釧路】希少生物が生息する釧路湿原周辺での大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設を機に、再生可能エネルギー普及と自然保護が共存できるかが全国の注目を集めている。地元の野生動物の専門家や国会議員、霞が関の中央官庁を巻き込む騒動のさなか、17日に釧路市議会が規制条例案を可決した。ただ、条例は法的拘束力はなく、実効性には課題もある。釧路管内鶴居村など湿原周辺の自治体でも懸念は渦巻いている。北海道は再エネのフロンティアであり続けられるのかー。

→釧路市の太陽光発電規制条例案可決 建設、許可制に 事業者に市との事前協議を義務づけ



→原発事故後、再エネ重視の福島市でも太陽光開発への対応に苦慮 規制条例あっても残る課題

「異議なし」。条例案可決は全会一致だった。傍聴した市内の自営業、辻裕之さん（43）は「大自然に太陽光パネルが無秩序に設置される現状に憤っていた。市が条例で規制に踏み出せる」と評価。「再エネと共生する方法も地域ぐるみで考えたい」とも話した。

騒動を象徴する現場は、釧路市中心部から北西へ約12キロにある同市北斗の約4.3ヘクタール。猛禽（もうきん）類医学研究所（釧路市）の斉藤慶輔代表が5月初め、異変に気づいた。日本エコロジー（大阪市）の依頼を受けた建設業者が原野に盛り土し、約6600枚の太陽光パネルを設置しようとしていた。

■頼ったのは政治

付近には国の特別天然記念物タンチョウなどが生息している。騒音の影響を案じた斉藤代表は、工事前にどんな調査があったのか釧路市教育委員会に問い合わせ、自身のX（旧ツイッター）でドローンで収めた工事現場の動画を繰り返し投稿した。斉藤代表は「（北斗が）こんな状況にあると世に問いたかった」と振り返る。

当時、日本エコロジーは事業を続ける構えを崩さなかった。そこで斉藤代表が頼ったのが政治だった。6月ごろ、小泉進次郎農水相と国会内で面会し、湿原周辺でメガソーラー建設が続く現状を訴え、法規制の強化を求めた。現行の種の保存法では対応できないと考えたからだ。環境相だった小泉氏とはオジロワシの鉛中毒の問題を訴える中で関係を深めていた。

わたしのニュース

一覧へ >

釧路湿原メガソーラー建設問題 初の省庁連絡会議

2025年9月24日 18:51



鳥牧と青都で陸上風力計画 北電、34年4月稼働予定

2025年9月24日 18:50



dynabook

優れた実力をこの1台



16.0型大画面

PR

人工と天然のバリアが未来を守る。地層処分のかいふと技術の会

半導体が北海道の暮らしに与える変化が分かる参加無料のセミナー

【親子で】9/27～28は「住まいとくらしのミライ博」へ行こう！

子育て世帯のマイホームの夢を応援！全期間固定金利の住宅ローン

アクセスランキング >

9月24日 1:09 更新

1 酒気帯びでトラック運転、札幌の会社を事業停止 北海道運輸局

2 JR根室線一部運休長期化か 出張、買い物…住民困惑 物流にも影響

3 生筋子の卸売価格、20年間で5倍に高騰 自家製イクラは「高級品」に

4 自慢の「痛車」、室蘭にずらり30台 道内各地から集結

5 白内障手術したペンギンは幸せになったのか？ 登別の「アオシロ」でストレス測定したら…<デジタル発>



お知らせ >

いくえみ綾原展

第51期天元戦第2局

自治体向け生成AIサービス提供



日本エコロジーによる釧路市北斗での太陽光発電施設の建設現場。下側には猛禽類医学研究所などの施設がある=8月13日（本社ヘリから、小川正成撮影）

小泉氏は7月中旬、昨年の自民党総裁選で支援を受けるなど関係が近い長谷川岳参院議員（北海道選挙区）に協力を要請。長谷川氏が斉藤代表と連絡を取り、複数省庁に照会したところ、希少生物に関する環境影響調査が不十分だとして文化財保護法に違反する可能性が浮上した。

ほどなく、文化庁が原状回復を命じる可能性を盛り込んだ見解を伝える事態に発展。長谷川氏は「太陽光発電は洋上風力などと違い地元への利益還元が乏しい。再エネは地域と共生する形で推進すべきだ」と話す。

■住民議論の歴史

釧路市や鶴居村などに広がる釧路湿原は、住民議論で保護の「線引き」が決められてきた歴史がある。1972年に開発派と自然保護派が協議し、釧路市内で開発可能な範囲を「海岸から約6キロまで」とし、それより内陸の湿原と周辺の保全に合意。市の都市計画にも明記されている。

同市北斗のメガソーラーは「6キロライン」より内陸にあるのに、計画が進んでいた。太陽光パネルは都市計画法上、建築物とみなされずルールの適用外だからだ。72年の協議に立ち会った釧路国際ウェットランドセンター技術委員長の新庄久志さん（77）は、想定外の事態を受け「釧路湿原周辺のあり方を含めて改めて論議すべきだ」とする。

今も釧路湿原周辺では市内約30カ所超で太陽光発電所の建設が進む。日照時間が長いことに加え、原野状態なら地価が安く、山間地よりも開発が容易に映る事情もある。

■鶴居村でも動き

湿原の3割を抱え、タンチョウ飛来地でもある鶴居村。景観を守るため日本エコロジーが一時発電所建設に動いた民有地約7.5ヘクタールを購入する方針を決めたばかりだ。

一方、新たな懸案が浮上している。実は購入する民有地の北東に隣接する原野（約9ヘクタール）がある。釧路湿原国立公園最奥地を望む高台「宮島岬」に通じる林道沿い。宮島岬は本年度から立ち入り禁止措置が緩和され、ガイドツアーで生かす取り組みが始まったばかり。林道はそのツアーコース内にある。

この原野の地権者が今夏、広葉樹林を皆伐した。村には「林業のため」と説明していた。だが、村への情報開示請求や取材を進めると、ここでも日本エコロジーが登場。今年8月、村に「太陽光を前提とした伐採計画」と伝えていた。

■「コメントしない」

日本エコロジーはこの件に「コメントしない」とする。村の太陽光規制条例や景観条例は事業者に事前協議を課しているが、村企画財政課は「いずれ土地を取得し、パネルを建てるだろう」と予測している。

条例は法律よりも下位にあり、憲法や地方自治法は法律を守って内容を定めるよう求めている。現実論としても「全国一律で規制を強めるのは難しく、地域の実情に合わせて条例で対応すべきだ」（環境エネルギー政策研究所の山下紀明主任研究員）と指摘されるが、妙案を見いだすのは容易ではない。

実際、釧路市や同管内標茶町は9月に入り、湿原周辺での開発を規制する法整備を環境省に求めた。浅尾慶一郎環境相は「国としてどのような対応ができるか検討したい」。地域住民に加え、全国の再エネ関係者が今後を注視している。

新築マンション情報はコチラ

suumo.jp

長谷工不動産SUUMOに新着情報掲載中

広告 

■太陽光比率の引き上げ 政府も方針



大阪の日本エコロジーが進める釧路市北斗の太陽光発電施設の建設現場=8月13日（本社ヘリから、小川正成撮影）

2011年の東京電力福島第1原発事故後、日本は官民挙げて再生可能エネルギー発電の普及に取り組んできた。特に太陽光は有望視されており、政府が今年2月にまとめたエネルギー基本計画では、40年度の電源構成に占める割合を現在の1割から最大3割に引き上げる方針を掲げた。

エネルギー基本計画の示した電源構成		2023年度	40年度
	再生可能エネルギー	22.9%	4～5割程度
	太陽光	9.8%	23～29%程度
	風力	1.1%	4～8%程度
	水力	7.6%	8～10%程度
	地熱	0.3%	1～2%程度
	バイオマス	4.1%	5～6%程度
	原子力	8.5%	2割程度
	火力	68.6%	3～4割程度

太陽光はパネル設置が容易で、山林や別荘地、ゴルフ場跡地も活用されてきた。近年は景観悪化や防災面で懸念もあり、慎重論も台頭している。

原発事故後、再エネを推進する福島市でも、市街地から見える場所で山林が削られる事態に、懸念が噴出。市は今年4月に太陽光や風力の発電施設設置を規制する条例を施行し、土砂災害の危険性などがある場所を禁止区域とし、禁止区域以外も設置を許可制にした。

道外でメガソーラー適地が限られつつある中、道内で1970、80年代に投資目的で売買され、放置されていた「原野商法」の土地が注目を浴びてもある。観光関連の雇用が増えるニセコ地域では住宅地向け、日照時間が長く少雪の釧路湿原周辺では太陽光向けに取引されるケースがある。土地を安価に仕入れられれば、発電に伴う投資を早期に回収しやすくなる。

道内の24年度の太陽光の導入量は12年度比24倍の236万キロワット。発電量に占める太陽光比率は10年度1%前後だったが、24年度は10%を占めた。

自治体は地域との摩擦抑制が急務だ。登別市では19年、再エネ事業大手リニューアブル・ジャパン（東京）の傘下企業が温泉街近くでメガソーラーを稼働。住民らの反対論を踏まえ、市は今年6月に再エネ規制条例を施行した。出力10キロワット以上の発電事業者に市との事前協議を義務づけた。

地方自治研究機構（東京）によると、道内では25自治体に太陽光の規制条例がある。道内のある再エネ事業者は「釧路湿原周辺の問題も注目され、太陽光発電のイメージ悪化が心配」と話す。

自家消費のため自宅屋根にパネルを敷く住宅用以外の太陽光は、投資対象になったり転売されたりもしている。政府は昨年、北海道を「金融・資産運用特区」などに指定。国内外から再エネ事業に巨額資金を集めようとしている。日本企業も海外で積極投資している。

（佐竹直子、古市優伍、菊池圭祐、長谷川裕紀）

あわせて読みたい

釧路のメガソーラー事業者、工事を一時中断 申請より多く伐採した0.5ヘクタールに植林、11月にも再開

2025年9月17日 13:06



エネルギー・GXの関連記事

釧路湿原メガソーラー建設問題 初の省庁連絡会議

島牧と寿都で陸上風力計画 北電、34年4月稼働予定

原発事故後、再エネ重視の福島市でも太陽光開発への対応に苦慮 規制条例あっても残る課題

長谷川裕紀

有料記事

2025年9月17日 19:45

あとで読む



エネルギー・GX

フォロー中

#エネルギー・GX

#全国

#全国 | 国際 | スポーツ

#全国・海外

大規模太陽光発電所（メガソーラー）開発を巡っては、東京電力福島第1原発事故後に再生可能エネルギー推進を打ち出した福島市でも問題になっている。開発のため山林が削られ、市民から景観悪化や土砂崩れを懸念する声が噴出し、自治体として対応を迫られた。再エネ発電と環境保護の共存について、今も議論が続いている。

問題になっているのは福島市近郊の先達山（せんだつやま）。東京の事業者が2021年に始めた工事で市街地からよく見える山の斜面が露出し「景観破壊だ」との苦情が相次いだ。

福島県は11年の東京電力福島第1原発事故を受け、40年頃までに県内エネルギー需要の100%以上を再エネで生み出す目標を掲げている。

こうした状況でも市は23年、地元事情を踏まえる形で、これ以上の太陽光パネル設置を望まないとする「ノーモアメガソーラー宣言」を発表し、全国的な関心を集めた。

さらに今年4月には、太陽光や風力の発電施設の設置を規制する条例を施行。土砂災害が起きる危険性がある場所などを禁止区域としたほか、禁止区域以外も設置を許可制にした。

もちろん限界もある。「条例施行前に建設を始めた事業者にさかのぼって対応できない」（県環境政策課）といい、事業者は今年9月末にもメガソーラーの商業運転を始める予定だ。

太陽光パネルの反射光が市街地に差し込み、まぶしさが交通事故を招きかねないとの懸念も払拭（ふっしょく）されていない。地元市民団体「先達山を注視する会」の松谷基和代表は「多くの市民が知らないうちに工事が始まり、大切な景観が壊されてしまった。行政は今からでも開発の許可を取り消し、建設を止めるべきだ」と訴える。

太陽光発電は、福島原発事故後の再エネ普及に大きく貢献してきた一方、重い課題もある。30年代以降に耐用年数を超えた使用済み太陽光パネルが大量に廃棄される見込みだ。不法投棄をどう防ぐかも焦点となっている。

政府はパネルのリサイクルを義務化する法案の成立を目指してきたが、費用を誰が負担するのかの法的な整理がつかず、義務化を断念する方向。代替策が必須の状況となっているが、検討が円滑に進むかどうかは不透明だ。

（長谷川裕紀）

あわせて読みたい

釧路市太陽光発電規制条例、効果と課題は？ 希少動物の保存計画を義務付け 行政訴訟の可能性も<ニュース虫めがね>

2025年9月17日 18:22



エネルギー・GXの関連記事

釧路湿原メガソーラー建設問題 初の省庁連絡会議

2025年9月24日 18:51

**鳥牧と寿都で陸上風力計画 北電、34年4月稼働予定**

2025年9月24日 18:50

**「太陽光発電、法規制を」 自民に根室市長要望 条例案12月提出方針**

2025年9月24日 18:49

**厚岸再エネ適地 マップに町HPで公開 中・大規模太陽光はなし**

2025年9月24日 18:38



タグをフォローする

エネルギー・GX

フォロー中

タグを押して関連記事一覧へ

#エネルギー・GX

#全国

#全国 | 国際 | スポーツ

#全国・海外

[トップで最新記事を読む](#)

わたしのニュース

一覧へ >

釧路湿原メガソーラー建設問題 初の省庁連絡会議

2025年9月24日 18:51

**鳥牧と寿都で陸上風力計画 北電、34年4月稼働予定**

2025年9月24日 18:50

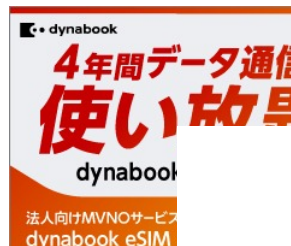


PR

人工と天然のバリアが未来を守る。地層処分へのAIと技術の融合**いざというときのために日頃から正しい備えを！北海道防災推進部****今週の求人情報はこちらから！やりたい仕事が見つかる！****【親子で】9/27～28は「住まいとくらしのミライ博」へ行こう！**

アクセスランキング >

9月24日 1:09 更新

1 酒気帯びでトラック運転、札幌の会社を事業停止 北海道運輸局**2 JR根室線一部運休長期化か 出張、買い物…住民困惑 物流にも影響****3 生筋子の卸売価格、20年間で5倍に高騰 自家製イクラは「高級品」に****4 自慢の「痛車」、室蘭にずらり30台 道内各地から集結****5 白内障手術したペンギンは幸せになったのか？ 登別の「アオシロ」でストレス測定したら…<デジタル発>**

お知らせ >